

つくりのものではない。
 ● 提案した内容はたき台、本来なら白紙の状態から議論して欲しいところ。

● 次回は年明けの1月に開催することで閉会しました。

第2回準備会の概要

● 最初に市から行政からのたたき台を説明。

● 会の目的・趣旨は、①運転状況や影響等の監視、②事業者、自治体への意見発表、③会の意見の住民への情報提供。

● 前提として、原発そのものは是非は目的外、委員への情報提供の在り方の保証、理解を得るための十分な研修・学習機会の提供。

● これに対し、委員からは次のような意見が出されました。
 ● 国がしっかりとしていないから住民の応援を求めるといふようなことは基本的には違う。さらに自治体がやるべきことをやらずにその代わり・隠れ蓑にされるので

はという不安がある。
 ● 事業者は配管の一部を点検して点検終了といつているが、残りを調べると自治体と言うような緊張関係が必要と思う。
 ● 年数回の開催では即応性のある会議にはできない。当面は頻繁に月に1回くらいあっても良いのでは。



● 反対から推進側まで意見がまとまれば大変なことであり、重みがあり、この会に期待する。
 ● 住民の生の声を聞いてもらう部署を会に設けて欲しい。
 ● 会が議決機関でないなら意見は尊重されるのか。

● 住民に公開する立場と非開示情報を守秘しなければならぬことは矛盾するのでは
 ● 住民への情報提供をどのように行うのか。
 ● 事務局を推進側の広報センターに置くのどうか。こ
 ● 会の運営費を事業者から出すのは趣旨からして好ましくない。

● 委員は知識レベルの広い範囲で選定がよい。
 ● 住民参加の、親しみを持って、住民によって育てられていく会にして欲しい。
 ● 委員であるからには周囲の意見を自分なりにまとめた
 ● 提言・意見発表が良い。

● この会が事業者が提案したものではなく集まった人の総意でできた会であること
 ● 確認したい。
 ● 委員は公募するのか。
 ● 会に対するプラスの見方
 ● できるが、事業者の宣伝材料になる懸念もあり、参加
 ● するかどうかは母体で判断
 ● したい。

● 事務局から次のような説明が

なされました。
 ● 自治体の能力にも限界があり、技術的助言を得るために技術委員会を作る。会を作るから手を抜こうと言う
 ● ことはない。

第3回準備会の概要

● 最初に事務局が前2回の議論を踏まえた会則(案)を示し、意見交換しました。

● 会の名称の「安全を確保する」では意味が無い。「監視」「情報公開」「透明性確保」でなければ今までの議論が無くなる。
 ● 会の名称は事務局案のまま
 ● が良いのでは。

● 委員は公募しないのか。(当初は公募せず、会を運営する中で今後考えることになりました。)
 ● 議長、コーディネーターに適任者がいなければしばらく市の部長に任せてはどうか。
 ● 議長は会員持ち回りや2人議長制ではどうか。
 ● 住民意見はインターネットのチャットよりも掲示板が
 ● 良いのでは。

● 議長、コーディネーターに適任者がいなければしばらく市の部長に任せてはどうか。
 ● 議長は会員持ち回りや2人議長制ではどうか。
 ● 住民意見はインターネットのチャットよりも掲示板が
 ● 良いのでは。